

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090600075
法人名	社会福祉法人 年長者の里
事業所名	グループホーム山王 年長者の里 1丁目ユニット
所在地	福岡県北九州市八幡東区山王1-15-1
自己評価作成日	平成24年3月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月29日	評価結果確定日	平成24年7月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>商業地にも近く、遊園地で楽しんでいる子供の声も聞こえる。また、近隣のお寺の鐘の音が、朝・夕方に鳴り、生活感のある場所である。テラスが広く、季節の野菜作りを行い、収穫をして食卓に上がっている。また、暖かい日には、テラスに椅子・テーブルを持ち出し、お茶と菓子を囲み皿倉山を見ながら談笑している。日常生活でもその方の能力に合わせた事を支援している。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>周辺には大型ショッピングモールやスペースワールドがある利便性の高い市街地に位置し、1階はデイサービスセンター、2階が2ユニットのグループホームとなる。様々な福祉事業を展開する「年長者の里」を母体とし、蓄積されたノウハウの活用や職員育成等にてその連携を活かしながら、開設して2年目を迎えている。管理者、職員は、専門職としての研鑽に努めながら、自然体でのかかわりを大切に、笑顔のある暮らしの継続に向けて、一人ひとりの思いに寄り添い、家族のように接している。また、季節感をつりいれ、メリハリのある日常生活が過ごせるよう、開放的なテラスでは菜園作りやお茶会が行われ、収穫の喜びも共有しながら食卓を華やかにしている。医療機関との密な連携を活かしながら、何気ない日常を支援しており、今後も個別支援の追求や地域拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。</p>
---

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況  次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を「挨拶 笑顔 敬語 気付き」を玄関、ホールに掲示し日々の介護につなげている。	法人の理念のもとに、日々のケアに取り組んでいる。また定例会を通し、個々人のその人らしさについて話し合いを行い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、回覧版で情報を共有している。文化祭など地域行事に積極的に参加している。また、幼稚園児とふれあえる機会をもっている。	地域の一員として、町内会に加入している。建物2階に事業所が位置しているため、地域の方が気軽に立ち寄ることは少ないが、回覧板や運営推進会議を通じて情報収集を行い、運動会等の地域行事へ参加したり、幼稚園児や小学校児童との交流の機会もある。地域の祭りの子供神輿の巡行を受け、入居者全員で歓迎し、ふれあいの機会となっている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中や、見学者の相談等で、認知症の理解や支援方法について気軽に相談・アドバイスしている。また、実習生を受け入れ、認知症についての理解や支援について指導している。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催しており、現在の取り組みについて報告している。また、さまざまな立場の方と意見交換を行いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、入居者、家族、町内会長、地域包括支援センター職員、同法人在宅介護支援センター職員等の参加により、定期開催されている。町内会長の積極的な関わりも得ており、ホームの状況報告や意見交換を行い、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通してケアサービスの取り組みを伝えたり、事故や苦情があった場合は、速やかに報告して相談している。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ており、現状を把握してもらっている。また、日ごろから不明な点や困難事例等について相談したり、情報共有に努めている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会で身体拘束・虐待について勉強会を行っている。また、毎日の業務の中で何が身体拘束になるのかを常に話し合いを行なっている。	権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共通認識を図っている。日常のかかわりの中で、無意識の中で言葉を遮ったり、言葉による行動を抑制とらないよう職員間で注意している。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加して、定例会等で学んだ職員が報告し、現在のケアや関わり方について話し合いを行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して、成年後見人制度について学び、職員に報告、必要なご家族に対して助言をしている。	現状として、権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、研修への参加や内部での伝達を通じて、職員の理解を深めるよう取り組んでいる。入居時や必要時に家族への説明を行う等、情報提供にも取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間を十分にとって説明を行なっている。解約時、改定時には、説明する時間をとっている。また、遠方で面会に来られない家族とは、電話や手紙にて、面会に来られる時に再度話しをしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入口に意見箱を設置している。家族の面会も多く、コミュニケーションの機会を大切にしている。法人として「年長者の里福祉オンブズマン委員会」を設置しており、第三者による相談窓口を案内している。	玄関に設置されている意見箱は、法人としてのオンブズマン委員による定期的な巡回の中で開錠され、状況確認や対応の協議を行う等、開かれた事業所としての取り組みがある。意見や要望については、速やかな検討と具体的な対応に努め、入居者本位の支援へとつなげている。	家族アンケートの実施や家族会の発足等、家族意見の収集に向けた、積極的な取り組みが期待されます。
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットの月一回の定例会や、毎日の申し送り時、業務の中で職員に意見や気付いたことを出してもらっている。	ユニットごとに毎月定例会を行い、活発な意見交換が行われ、意見や提案を収集している。事案によっては全体での検討を行い、運営への反映に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の能力に合わせた業務としている。大幅な手当の改定により、職員の意欲の向上を持って働けるようにしている。また、スキルアップできるように資格取得、研修やセミナーに参加できるように休日取得等に配慮している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、年齢や性別、経験の有無等による制限はしていない。契約職員として入職後も本人の希望や能力によって正職員登用や業種の変更等がある。	職員の採用にあたっては、年齢や性別、資格等による排除は行っていない。採用後には、法人として実施されているヘルパー2級養成研修の受講により、働きながら資格取得が可能となっている。研修体制の整備や資格取得に向けた支援等、個々のスキルアップへの支援や、モチベーションの確保に向けた取り組みを行っている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全職員対象に外部講師を招き、研修を行っている。また、リーダークラスの研修も行っている。職員採用時に、人権教育、啓発活動に関する研修を行なっている。	内外の研修の機会を確保し、また、新人研修の中でも、入居者の人権尊重を重視したカリキュラムを組んでいる。法人全体で、人権教育、啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、管理者、リーダークラス、全職員対象などの研修を行っている。また、外部研修についても職員の能力に合わせた研修に積極的に参加するよう努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで他事業者と情報交換の場としている。また、同業者からの問い合わせや見学にて、情報共有の機会としている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅に訪問し、現在の生活やこだわりについて話したり、利用している事業所に訪問して、情報を取り入れている。入居後にも不安なことを聞き取り、安心して過ごせるように配慮している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経緯の中で、不安を抱えている事が多く、入居前に家族の要望・希望・思いを伺い、家族と一緒に考えながら、信頼関係作りに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の情報等の中で、本人と家族等が「その時」必要なサービスを見極めた上で、本人に合わせた支援に努めている。また、必要に応じて他部署の相談員と連携をとりながら、相談できる体制をとっている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、配膳・掃除・洗濯干し・洗濯物たたみなど、能力に合わせて職員と一緒にやっている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に相談しながら支援することを心掛けている。また、少しの変化でも報告・連絡・相談を行い関係を作っている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	傾聴の中より、馴染みの人や場所を理解し、面会者とのつながりや、外出時に馴染みの場所の近くを通ったりして、関係が切れないよう、支援に努めている。	近隣から入居されている方も多く、散歩や買い物に出掛ける際には、馴染みの方と挨拶を交わすことも多い。地域行事への参加や馴染みの美容室の利用等、これまでの関係性の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1番長く過ごされているホールでの席の工夫をし、いろいろな方と話しをできるようにしている。利用者同士の関係を歌やレクリエーション・外出などで関係性を作り深めるように支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、気軽に訪問していただいたり、入院先にお見舞いに行ったりしている。また、次への移行がスムーズにいけるように支援している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴することで、生活の思いや暮らしの希望を職員が共有し思いに添えるよう努めている。自分で思いを話せない方は、ご家族からの情報、また、日々の会話等の中から、求めている事を見いだせるようにしている。	日々のかかわりの中で思いや意向の把握に努め、定例会や申し送り等にて、職員間の共有を図っている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者の協力も得ながら、本人本位に検討している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・利用サービス関係機関等より収集している。同居されていない方からは、ご家族だけでなく、入居後にも傾聴の中からも情報を得ている。また、入居に至った経緯やサービス利用時の様子等の情報の把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録により、一日の生活リズム、バイタル、訪問看護による体調管理により、有する能力について定例会にて状態を把握している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成担当者が本人の希望や、面会時にご家族に現在について話しており、その中で、ご家族の気持ち、希望を介護計画に取り入れている。	本人、家族の意向を踏まえ、定例会や申し送り、カンファレンスノートを通じて情報や気付きの共有を図り、計画作成担当者と各担当職員を中心として介護計画を作成している。	職員の気づきの集約や、アセスメントから見出された個別のニーズや目標を具体的に示し、共有しながら、心身の活性化に結び付けていくことが期待されます。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、個人ケースに記録し、全職員情報の共有をしている。また、気付きによる工夫は、カンファレンスノートを利用して、全職員が情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者・家族の状況・体調に合わせて外出したり、同敷地内にデイサービスがあり、ボランティア来られた時には、一緒に楽しんでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に参加し、地域のイベント参加したり、ボランティアの受け入れをしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な往診、日々の報告・相談により、健康管理が行なっており、本人・家族との信頼もあり安心にもつながっている。ご家族、ご本人の希望時には、かかりつけ医以外の病院についても連携をとっている。また、入所前から利用されている歯科が継続して「往診」されている。	本人、家族の希望によるかかりつけ医や、協力医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。歯科の往診体制も確立している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一度の訪問看護時に小さな変化も相談したり、電話により看護師に状態説明や相談によって、健康管理に努めている。看護師から主治医に報告があり、指示をもらっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院の相談員やご家族との情報交換をとっており、認知症の進行防止のため、面会の機会を多くもったり、早期退院に向け相談員と話し合いを設けている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期「看取り」は、医療と介護の連携が重要となるため、ご家族、医師と職員との方針が共有できる努力をしている。入居時に、事業所対応できない事もあることを説明している。	入居時に、看取りに関する指針を示し、事業所としての最大限の支援について説明し、同意を得ている。状況の変化に応じて、家族や医師との話し合いを重ねながら、方針の共有に努めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会に参加している。日々の生活の中で、訪問看護、医師により利用者ごとの情報を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っている。夜間等の避難場所に関して消防署からのアドバイスも受けている。運営推進会議等で自治会長とも話し、避難誘導について地域の方にも協力をお願いしている。	消防署の指導のもと、併設するデイサービスセンターとの合同訓練を2回、夜間想定訓練を1回、計3回の避難訓練を行っている。運営推進会議を通じて、地域との協力体制が築けるよう働きかけを行っている段階である。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員対象のマナーアップ研修(外部講師による)も実施している。認知症があり、思いが伝えられなくてもご入居者は、「人生の先輩である」事を念頭に入れている。	法人全体でマナーアップ研修を実施しており、馴れ合いの中で、一人ひとりの尊厳やプライバシーを損ねることがないように、意識を高める取り組みを行っている。排泄ケアの際のさりげない対応やスピーチロックについても、意識を持った支援に努めている。
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表せるように、質問方法や時間、場所の工夫をし、自己決定の機会を少しでも多くできるように努めている。	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしておいて頂いている。また、天候や行事などにより個別ケア、集団ケアの関わりも大切にしている。	
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択の決定を優先したり、理容の時期、髪型の決定を本人と相談して決めている。	
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、できる範囲で盛り付け、食器洗い、お盆拭き、テーブル拭きをされたりして。食事は、職員と一緒に談笑しながら食事をしている。誕生日には、ご本人の好きな物を用意したり、時にはおやつと一緒に作っている。	嗜好調査が行われ、管理栄養士により献立が作成されている。特別な日や行事の際には、近隣のショッピングモールやフードコート等に出かけ、個人の嗜好を採り入れたり、好きなものを注文してもらっている。盛り付けや後片付けを職員とともにを行い、同じテーブルを囲んでいる。こだわりの食器が用いられ、視覚や雰囲気からも食事を楽しんでいる。
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立をたて、旬の食材を意識しながら管理している。水分補給は、各食事時、起床時、10時、15時には150cc、入浴後、散歩後など適宜に提供している。また、飲水を拒否される方には、管理栄養士、ご家族と相談しながら工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔清掃は必ず行なっている。歯を磨くだけでなく、口腔内(歯茎、舌帯)のケアを行っている。夜間の義歯の消毒は、本人の思いに沿って工夫している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	T・P・Oに合わせた排泄用具の選択をしている。夜間、オムツをされている方は、入眠を優先して、開眼されている時に、トイレ誘導を行っている。昼間は、排泄チェック表を活用し、できる限りトイレを利用して、自立排泄に向けた支援を心掛けている。	排泄チェック表を活用し、個別のパターンや間隔の把握に努めている。また、業者にもホームに来てもらい、個別に応じた排泄用具の選択を工夫している。日中はプライバシーへの配慮に努めながらトイレでの排泄を支援し、夜間については個別のニーズに対応している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ便秘薬を使用しないために、水分補給、運動、腹部マッサージ、良質な睡眠をとれるようにしている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個浴であり、基本的に、週3回としている。入浴日は利用者の希望や健康状況などに応じて柔軟に対応している。入浴ができない時には、清拭を行い、入浴を拒否される方に対しては、お誘いの工夫をしている。	週3回の基本的な入浴スケジュールは設定されているが、希望や状況に応じた柔軟な支援に努めている。健康状態や希望に配慮しながら、ゆっくりとした入浴を楽しめるよう支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて休息や就床を支援している。夜間の良質な睡眠をとれるように、日中に活動を促している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法・用量・副作用について、情報の共有を申し送りを通じ確認している。症状の変化を必要に応じて主治医への報告・相談できるようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活を理解し、毎日の生活が充実できるように役割作りをしている。又、誕生日には、本人の好きな物で祝ったり、皆でケーキを作ったりしている。時に散歩や外出、買物などで気分転換している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候により、近隣の散歩を行っている。希望により買物同行、花見ドライブなど外出を支援している。	近隣の散歩や、テラスでの外気浴等、短時間でも戸外に出で気分転換が図れるよう支援している。徒歩圏内に大型ショッピングモールがあり、買い物や同行や外出に出掛ける機会もある。行事としても季節ごとの花見を企画し、外出支援を積極的に行っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	現金は、手元に持ち買物時には、自分で支払っていただいている。持っていない方は、立替払いで買い物をしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望されるときには、家族・友人等に電話支援を行なっている。又、できる限り直筆で年賀状を書くなどの支援も行なっている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはいつも快適に過ごせるように、温度・湿度管理をしている。晴天には、太陽の日差しを浴びたり、日差しが強い日には、ブラインドやカーテンで落ち着く環境をつくっている。夏には、ゴウヤでグリーンカーテンを作り収穫も楽しんでいる。	夏場はゴーヤのグリーンカーテンが施され、日差しをやわらげながら、生育状況や収穫を楽しんでいる。共用空間は、生活感や季節感のあるものを、うまく活用しながら、暮らしの場を整えている。床暖房も設置されており、快適に過ごせるよう配慮されている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、テーブルだけでなくソファがあり、気の合ったもの同士が過ごしている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談しながら、新調するのでできるだけ今まで使い慣れた物を持ち込んで頂いている。入居後も本人・家族の意向を大切に、安心できる環境を作っている。	各ユニットは1丁目・2丁目と名付けられ、それぞれの居室に番地が記されている。入居時に家族とも相談しながら、筆筒等の家具や使い慣れた物、写真や思い出の品々が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり、共有部分での必要な箇所に手すりを設置し、自立支援に基づき、残存能力を生かし、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように配慮している。		